

平成25年度 秀峰園 事業報告

平成26年5月28日

施設長 松藤 義徳

はじめに

2013年12月4日国会は国連の障害者権利条約の承認案を参議院本会議で可決し、正式に承認しました。国連に加盟する国と地域の中で139番目となります。障害を理由とする差別はやめて、障害のある人に障害のない人と同等の権利と地域生活を保障することを世界のルールにしよう和高らかに謳うこの条約は、2006年12月に国連で採択されました。日本政府は2007年9月にこの条約に署名し、2009年3月には締結に向けた準備を整えようとしたが、日本障害フォーラム(JDF)をはじめとする障害団体が「締結に値する国内法制の改善が先で、現時点での締結は時期尚早だ」と主張したことで、この時は見送られました。

それから4年9ヶ月を経て、この間、2度の政権交代の中で、障がい者制度改革推進会議及び障害者政策委員会等、障害のある当事者が過半数を占める会議体での検討を軸として、障害関連法制の見直しが図られてきました。そして、2011年6月の障害者基本法改正成立に始まる一連の法整備は、2013年6月の障害者差別解消法成立をもって、障害者権利条約を締結するための一応の条件が整いました。

しかし、障害者基本法も障害者差別解消法も障害のある人と関係者が望む水準には至っておらず、障害者総合支援法に至っては、総合福祉部会が示した骨格提言とは程遠い内容で、さらなる見直しや問題が求められています。

1点目は災害時の障害者支援の在り方です。東日本大震災での障害者の死亡率は全体の死亡率の約2倍でした。この数字が示す命の格差を解消するための手立てを講じる必要があります。

2点目は最低限の文化的な生活を送ることが出来るための所得保障です。福祉的就労に従事する障害のある人の約85%が相対的貧困線と言われる年収112万以下であり、高齢の親等により生活が支えられています。これでは、障害のない市民と同等の生活とは言えないことは明白です。

3点目は精神障害者の社会的入院問題です。精神科の平均在院日数は約284日で一般病床の平均が約17日であることを比較するとあまりに長いですし、地域の受け皿がないため本人が望まない入院を余儀なくされている状況を一刻も早く解消する必要もあります。

障害者にとってまだまだ厳しい実態がある中、秀峰園の利用者は平均年齢50歳を超え、障害とともに体力的にも衰えが見えだす状況は避けられません。私達秀峰園職員は作業を通じて、地域の皆様、各関係団体と協力し利用者の願い「地域で働き・暮らす」最低限の保障を今後も守っていきたいと思います。

平成26年3月31日現在

1、職員配置

管理者・サービス管理責任者	目標工賃達成指導員	職業指導員	生活支援員	調理員	嘱託医
1	1	3 (3)	4	2 (2)	1 (1)

※ () 内の数は非正規職員

2、開所日数・利用者数・出勤率

	開所日数	利用者数	実利用者数	延利用日数	出 勤 率	出勤率(20名)
4 月	23 日	27 人	26 人	536 日	86.3 %	116.5 %
5 月	22 日	27 人	26 人	484 日	81.5 %	110.0 %
6 月	23 日	27 人	26 人	528 日	85.0 %	114.8 %
7 月	23 日	27 人	26 人	525 日	84.5 %	114.1 %
8 月	22 日	27 人	27 人	486 日	81.8 %	110.5 %
9 月	22 日	28 人	28 人	511 日	83.0 %	116.1 %
10 月	24 日	28 人	28 人	529 日	78.7 %	110.2 %
11 月	23 日	28 人	28 人	504 日	78.3 %	109.6 %
12 月	22 日	28 人	28 人	484 日	78.6 %	110.0 %
1 月	23 日	29 人	29 人	533 日	79.9 %	115.9 %
2 月	21 日	29 人	28 人	473 日	77.7 %	112.6 %
3 月	21 日	30 人	29 人	495 日	78.6 %	117.9 %
合 計	269 日	335 人		6,088 日	81.1 %	113.2 %

3、平均年齢・平均通所年数(男 17名 女 12名)

平均年齢	53.2 歳	男	54.2 歳	女	52.9 歳
平均通所年数	10.8 年	男	9.5 年	女	12.6 年

4、利用者障害程度状況

身体障害者手帳	22 名	1 級…7 名	2 級…7 名	3 級…7 名	5 級…1 名
療育手帳	5 名	A2…1 名	B1…3 名	B2…1 名	
身体障害者手帳+療育手帳	1 名	5 級+B1			

5、作業支援

縫製班

- ・ アンネル・太陽セランド

ともに安定した受注生産を行えた。新規担当職員との引継ぎをスムーズに行い、利用者との良好な関係維持に努め、新しい枕の作業も取り込む事に成功し、前年度より2割の増収と成る。

- ・ 自主製品

ふきん・小物製品とも前年度並みの生産・販売が出来た。固定客も出来、お客様の要望にも対応出来ている。

よって、縫製班の工賃を増収する事ができた。

軽作業班

- ・ リサイクル作業

数量は前年度並みだが、単価の高騰と電線の被膜取り作業で1割の増収となった。

新たにスチール缶からアルミ部分を切り分ける作業を取り入れている。

- ・ 加工作業

ポンせんべいの安定した生産を維持するために、味付けを自分たちで出来るように試作を続け、12月からは5種類全て独自の味付けが出来るようになった。

これにより、材料費のコストを下げることに成功した。

さしみこんにゃくは、製造方法の見直しを行い、真空状態で縮みにくくて、匂いの少ないこんにゃく作りに成功した事で、利用者が火を使う必要がなくなった事により、作業スペースが以前よりも確保しやすくなった為、他の作業とも並行して安全に行えるようになった。

販売については、前年度に引き続き催事販売、施設販売を行ったが、販売先を厳選し、遠方かつ長時間の販売を少なくした。施設訪問販売・近隣での催事販売を中心に取り組み、利用者もしっかりと関わり、売り上げを伸ばす事が出来た。

道の駅・直売所などの委託販売については、引き続き売り上げを維持している。

役務については、これまでの除草作業に加え、仕上がりがいいと評判を呼び、剪定・片付けなども仕事も頼まれるようになり、春から秋にかけて仕事が途切れることもなく、売り上げもそれに比例して大幅に伸ばす事が出来た。

よって、10月から軽作業班の時給を全体的に15%増収する事ができた。

利用者工賃の状況は次のようになっている。

6、作業班人数及び工賃支払い状況

平成24年度		年間支払総額	月額平均工賃（1人）		夏期手当（1人）	冬期手当（1人）
縫製班	9名	2,180,196円	20,187円	15,609円	5,000円	25,000円
軽作業班	18名	3,589,512円	16,618円			
合 計		5,769,708円				

平成25年度		年間支払総額	月額平均工賃（1人）		夏期手当（1人）	冬期手当（1人）
縫製班	10名	2,493,609円	20,780円	19,108円	10,000円	25,000円
軽作業班	19名	4,156,078円	18,228円			
合 計		6,649,687円				

※ 工賃の最高額（縫製班：51,284円，軽作業班：50,575円）

総括

利用者への障害と高齢に体力的な衰えを配慮しながら、作業に対する課題や問題を支援を通じて改善してきた。よって作業がより安全、かつ、効率よく進み、作業毎に担当者を決めることで、作業に責任感が出来てきている。又、今年度は販売先と商品をきちんと取捨選択したこともあり、水道光熱費や販売に係る交通費などの諸経費を就労事業で全て費用計上したうえで、25年度も目標工賃を達成する事が出来た。

次年度の計画においては、安定した作業と売り上げを確保しながら、新商品の開発に着手し、さらなる利用者工賃のアップを行いたい。

7、生活支援

健康管理

田川診療所による年2回の健康相談を全ての利用者を実施し、注意すべき点などを利用者と職員に指導いただいた。又、医療情報健康財団による年2回の健康診断により、定期通院を行っていない利用者の病気の早期発見・予防を把握する大事な機会であり、問題や再検査の利用者については病院に検査に行くように指導、助言を行なった。精神的なものや、障害の影響で、長期入院や長期に休まれる利用者が数名いる中、入院や訪問を通じ、心身ケアの支援を職員全員で行った。

防災管理

東日本大震災の教訓を受け、年2回の避難訓練（避難誘導・消火・通報）を実際の災害を想定し、安全かつ速やかに行えるようになっている。

8、職員研修

利用者の支援や食品を扱う上での知識や技能などを修得する事も大事だが、特に職務上必要な能力や専門性を身に付ける事により一層のサービス向上や教育、自己啓発にも繋がるものとして、様々な研修会に参加しました。

7 / 1 9	ヤマト財団 障害者の働く場 パワーアップセミナー（福岡）
8 / 2 3	福岡県集団指導説明会（春日）
8 / 2 4	第23回職員学習交流会（直方）
8 / 2 5	第23回職員学習交流会（直方）
8 / 2 8	初めてのパン作り教室（嘉麻市）
9 / 1 2	相談支援従事者研修（春日）
9 / 1 3	相談支援従事者研修（春日）
9 / 2 1	きょうされん全国大会（福島）
9 / 2 2	きょうされん全国大会（福島）
10 / 1 2	障害者施策をめぐる動向と私たちの取り組み（福岡）
10 / 3 0	きょうされん全国大会（福島）
10 / 3 1	きょうされん全国大会（福島）
11 / 5	九州授産協議会研究大会（熊本）
11 / 6	九州授産協議会研究大会（熊本）
11 / 1 3	サービス管理責任者研修（春日）
11 / 1 4	サービス管理責任者研修（春日）
12 / 1 3	リスクマネジメント研修（春日）
2 / 1 8	身体障害者協会施設長会議（福岡）
2 / 1 9	防災セミナー研修（福岡）
3 / 2	新たな連携のあり方を問う（福岡）
3 / 8	きょうされん九州ブロック大会（大分）
3 / 9	きょうされん九州ブロック大会（大分）
3 / 2 4	サービス管理責任者研修（春日）
3 / 2 5	サービス管理責任者研修（春日）

9、行事活動

利用者のニーズに耳を傾けながら、様々な取り組みを行ってきた。
春のお花見から始まり、がんばるデイ等の署名活動や買い物。
風船バレーボールは利用者からの人気も高く、練習ときょうされん・田川を作る会・福岡県主催の年間3大会の参加で準優勝と毎年好成績を収めている。
または、夏の恒例行事となっているそうめん流しやソフトバンクの野球観戦。
友の会主催の佐賀に1泊旅行やフルーツランドへみかん狩り、毎年参加の川崎福祉まつり。
年末は日王の湯にて、初の試みである1泊での忘年会。
新年会は今回で2回目となるすみれアクティブセンターとの合同新年会を行った。
利用者の意見をもとに、職員会議等で十分に話し合いながら、利用者全員が参加でき、楽しめるものを提供できた。

まとめ

利用者の様々なニーズを捉えていきながら、関連事業所との連携を密にし、「障害があっても働きたい、普通に暮らしたい」を秀峰園内、外から支援していきながら、広い視野で本質を見極めて、障害分野はもとより、他の社会保障分野の運動とさらに連携をひろげていかなければならないと思います。とくに生活保護基準の引き下げや介護保険制度の見直し、65歳介護保険優先原則の動向などに注意を払い、1つひとつの政策動向の本質（何を目的に何を変えようとしているのか）を注視し、しっかり学習を行ない、時期を逃さず、必要な運動や政策提言、要望書提出なども今後行なっていく必要があります。